

コメント：半農半Xの意義と農政上の位置づけ

関司直也（法政大学）

■半農半X：塩見直紀さんが1990年代半ば頃から提唱

「持続可能な農ある小さな暮らしをしつつ、
天の才（個性や能力、特技など）を社会のために生かし、
天職（X）を行う生き方、暮らし方」

■関司：なりわい就農

“場所”が先に決まる人生 ⇔ 「農業をやりたい」は後から

■「むらの農離れ」から、それを基点に再構築へ

- ・地域資源へのかかわりの後退， **価値の喪失**
- ・実は、人材はゼロではない？ 様々な経験を有する多彩な人材を抱えるが、その豊富さが「**見えなくなっている**」現状

⇒個人にとっても、地域にとっても農とXの相乗効果

コメント：半農半Xの意義と農政上の位置づけ

関司直也（法政大学）

■楽しい農業を目指す

■小さいロット＝着実に食べ手に届けられる



コメント：半農半Xの意義と農政上の位置づけ

関司直也（法政大学）

■ 農政上の位置づけ：新しい農村政策に向けて

兼業化→半農半X，多業・複業　＝フラットな位置づけ

混住化→都市農村共生，選択的混住社会

過疎化→人口分散，低密度社会

• 農にもXにも、チャレンジできる

セーフティネットとしてのお金／時間のかけ方／経験の積み方

• 集落営農の捉え直し（水柿報告：シェアリングに焦点）

中国型：コミュニティ維持目的，北陸型：兼業目的のハイブリッド？

• 北海道農業の今を捉え直す必要

ゴールなき規模拡大の限界、実は半農半Xはいる

→専業／兼業二分論の終焉か？…「多様な担い手論」の再考

基本法20年での再検討の兆し？

